# 平成 25 年度
# 福岡県移住者子弟留学報告書

2013 Exchange Students Program for
Descendants of Immigrants from Fukuoka Prefecture

C o m p l e t i o n  R e p o r t

Fukuoka International Exchange Foundation

公益財団法人福岡県国際交流センター

# 目次

02 細江　タニア　絵美（ブラジル福岡県人会）
九州観光専門学校カフェ＆スイーツ科

06 松延　理恵（ブラジル福岡県人会）
九州産業大学商学部

10 上田　上村　ゆきこ　ブルナ（ブラジル福岡県人会）
九州産業大学経済学部

14 横尾　謙児　ロナルド（ブラジル福岡県人会）
九州大学大学院工学府

19 ヨシカイ ベニテス ディエゴ アロンソ（ペルー福岡クラブ）
九州大学農学部

23 徳永　直人（在ボリビア福岡県人会）
第一自動車整備専門学校

26 湯浅　ファクンド（アルゼンチン福岡県人会）
九州工業大学情報工学部

30 金川　龍介（南加福岡県人会）
九州大学農学部

ブラジル福岡県人会
細江　タニア　絵美

**はじめに**

私はパティシエになる夢と、その夢を叶えたいという強い意志があります。

昔から私の夢は、世界一のパティシエになる事でした。理由は、私にとって製菓とは芸術であり、繊細さや細かさだけでなく感受性が必要な職業で、その上、人を喜ばせる事ができる職業だと思うからです。

ブラジルで調理大学に入学する前から、パティシエになる計画を立てていました。その計画とは以下のものでした。

１．国の一番有名な調理大学に入学する事
２．同時に日本語学校で日本語の勉強をする事
３．日本で留学生として製菓の勉強をする事
４．帰国後三年～五年間お菓子屋さんで腕を磨く事
５．自分のお店を開く事

2011 年にブラジルの調理大学を卒業しました。しかしその時点では、日本に行けるかどうかはまだ分かりませんでした。日本へ留学できる事が 2012 年の年末に決定しました。日本へ行く事は遠い夢だと思っていましたので、本当に嬉しかったです。

**福岡での生活**

着いた当初は、新しい環境や日本の学校、そして日本語での生活に慣れるかどうか本当に不安を感じていました。しかし、新しい生活にも次第に馴染み、不安も無くなり、夢であるパティシエの勉強に励もうと、やる気が湧いてきました。

この一年間嬉しい事がいっぱいありました。一番嬉しかった事は、私達留学生と寮に一緒に住んでいる日本人の皆と、仲良く暮らせた事です。第二の家族ができた感じです。嬉しい時だけではなく、困った時もいつも助けてもらっています。

**勉強**

九州観光専門学校のカフェ＆スイーツ学科で、製菓と製パンの授業を受けました。そして製菓の基本技術を身につけました。学校での生活は万事順調に進みました。というのも授業やテスト、実習で自分の予想を上回る成績を出せたからです。学校で様々な事を学び、習得することができた今、私の長年の夢に近づき、さらなる一歩を進み始めた感じです。

**日本文化の体験、発見**

生け花や茶道の体験では、日本の『和』をすごく感じることができました。日本人は本当に繊細で、物事を完璧に行ないます。そして日常生活では日本の『おもてなし』に触れる機会がたくさん

ありました。日本人にとっては当たり前のサービスだと思われていることが、外国人にとっては本当に驚く事が多いです。言葉使いも丁寧ですし、電車や新幹線も時刻が正確です。日本のトイレや公共の場所などは、本当にきれいに整備されています。買い物をする時、顧客の値踏みをしません。私は自分の国では数えきれないぐらい、そのような扱いをされる人を見ました。日本は本当に素晴らしい国です。

**夏**

夏休みには日本をさらにもっと知る出来事がありました。７月に海外福岡県人会子弟招へい事業というプログラムが行なわれました。その時、福岡県各地を巡り、伝統文化を実際に体験させていただいて、その地域の方たちと交流する事が出来ました。色々な国の子ども達と交流できて、非常に良い経験でした。

夏には家族会の方々と一緒に久留米の花火大会と、香椎浜の花火大会を見に行きました。人生で初めての花火大会で感動しました。ブラジルでも花火を上げますが、日本の花火とは比べものになりません。日本の花火はとてもきれいで、豪華です。夏休みで日本を巡る旅もしました。愛知県、岐阜県、富山県、滋賀県、奈良県、京都府、広島県へ行きました。岐阜県では私の人生の一部を知る事が出来ました。父の生まれた故郷を訪ねました。自然に囲まれて、本当にきれいな所です。それから父の従兄弟の細江幸太郎さんの家にも行きました。細江幸太郎さんから色々な話を聞きましたし、曾祖父の細江幸作の墓参りをしました。本当に日本に来て良かったと思います。

この旅で日本人の優しさをもっと知る事が出来ました。昔から私の頭の中には『日本人は冷たいなあ〜』というイメージがありました。しかし、そう思っていたのとは逆で、この旅で数えきれないぐらい日本人の方々が助けてくれました。

日本人は冷たいと思っていたのは、ジェスチャーがあまりないからではないかと、今は思っています。日本人はお互いに触れる事、抱きしめる事をあまりしませんが、ブラジルでは普通のことです。日本人はジェスチャーをあまりしない代わりに言葉で分かり合い、優しさを言葉で表現します。ジェスチャーのような体の触れあいが無くとも、心と心が触れ合うということを知っているのではないでしょうか。

**最後に**

最後に、この一年間学校だけでなく、日本で過ごしたこと全てが勉強になりました。学校で教わらない事もたくさん学びました。それも大事な習得です。これからもさらに多くの事を吸収し、どんどん成長していきたいです。ブラジルに帰ったら、日本で学んだ事を活かしたいと思っています。私は、周りの皆に、今こそ自信を持って「本格的なパティシエの道へ入った」と言える気がします。これからも頑張って続けていきたいです。

この一年間日本で生活をしている間に色々な人に出会えて、そして豊富な経験を積みました。そのことは私の視野をさらに広げてくれました。国際交流センター、家族会、そしてブラジル福岡県人会の皆様のお陰です。皆様の温かいご協力を頂きまして留学できた事に深く感謝しております。家族会の皆様のことは、まったく血の繋がりが無くても、本当の『家族』だと思っています。

このような経験をくださった皆様に対して、改めて感謝の言葉を言いたいと思います。この一年間、本当にありがとうございました。

九州観光専門学校　カフェ＆スイーツ科　　瀧下　俊雄
（細江担当教員）

入学当初の第一印象

まず最初に、今回初めて学科として外国人留学生の受け入れを行いました。アジア圏（主に中国）の留学生は、こちらとしてもある程度イメージはありましたが、ブラジルからの留学生という事でこちらとしても正直かなりの不安を感じていました。

入学前の個人データでは、主な入学生より年上である事、また以前食に関する勉強経験があるという事で、どのような指導をしていけば良いか考えもしました。また、日本語の理解がどのくらいなのかという根本的な部分の心配も当然ながらありました。

ただ、この心配は入学前の面談で、ある程度解消されたと感じ取れました。

その面談では、今の日本人の若者には少なくなった素朴さや素直さ、また勉強をしたいという向上意欲を強く感じとれました。日本語の部分でも特に違和感なくコミュニケーションが取れて、大丈夫だという部分もあり、こちらの不安も解消されたと思います。

入学式後のクラスメイトとのやりとりも、身構える事なく、進んでコミュニケーションをとり、年齢の差に関係なく笑顔で話しこんでいる姿は、微笑ましくも見えました。

授業での指導

日本語の会話能力の部分では、ある程度の理解があり問題も無いのですが、授業中に行う板書は、やはり難しそうに思えました。参考資料となるテキスト等やプリントに関しても、日本語やフランス語名称（製菓系授業）になるので、この部分は日本人の学生よりワンテンポ遅れてしまいます。また、業界用語（現場で使用する俗語）の理解も難しかったのではと思います。

知識や技術を身につけるという部分では、学校としても基本的な部分を身につけさせるカリキュラムで行っていますが、やはり反復復習がないと身につくものではありません。日本人の学生であっても、この部分は同じで、どれだけの回数を経験したかで変わってくると思います。授業終了後の放課後等で自分自身の成長を目的とした反復練習を行う時間を設ける事が必要だと思いますが、この部分はそちらのスケジュール等の関係もあると思うので今後課題になると思います。

ブラジル福岡県人会
松延　理恵

**はじめに**

日本に来てからもう１年がたとうとしています。あっという間でしたが、思い出は山ほどあります。残りの日々は１秒も無駄にしたくないです。

福岡県は、一昨年亡くなった祖母のふるさとであり、福岡県への留学は、祖父が望んでいた事なので、福岡に留学させて頂けた事をとても嬉しく思います。

私は、ブラジルのサンパウロ州マリリア市からきました。マリリア市のエウリピデス総合大学センター会計学科を、三年前に卒業しました。今、ブラジルでは事業を始める事をすすめて町の活性化をうながしていますが、７０％は一年以内に廃業しています。それは他の原因もありますが、主にずさんな経理によるものと言われています。今年、市内で家族が開いた食堂の経営のために、会計士として経済大国日本のきめ細かく、確実な経理を学び、学んだ事を将来ブラジルで活かしたいと思っています。日本の大学では、会計士がどのようにしてその学問を修得し、資格を得ているのか、また、会社などの組織で、会計士がどのような位置づけで役割をになっているのか、どのようなものを経費としているか、細部を詳しく学んでいます。

**勉強**

私の指導教員である浅川哲郎先生は、私の研究を認め、色々なテキストやいくつかの大企業の有価証券報告書や研究材料を渡して説明してくれます。前期に、先生の簿記入門の授業と工業の授業と３年生のゼミを受けました。その他に英語と日本語とビジネスの授業を受けました。たくさんの講義を聞かせて頂きましたが、日本語能力が低い私にはわからない事だらけでした。漢字の量も、とても多くて、わかり辛かったのですが、先生は自由にしてくださり、自分のペースで研究をすすめることが出来ました。後期には３年生のゼミが終わり、先生からすすめられた２年生のゼミを受けるようになりました。他の授業よりも日本語の授業が２つふえました。そのおかげで授業もわかりやすくなり、もっと勉強を頑張ることができました。

この９ヶ月間を見ると、一番に日本語を学ぶことが出来たのは友達のおかげだと思います。同じ寮に住んでいる日本人たちと話したり、部活の友達とふざけたり、先輩から毎日送られてくる漢字だらけのメールにメッセージを返したり、だんだん日本語を聞きなれて話しやすくなり、漢字も読めるようになりました。日本語を話すのが苦手だった私が、こんなにも日本語を楽しんで話せるようになるとは思ってもいませんでした。まだまだ正しい日本語を話すことはできませんが、無理に勉強するより友達と話して習うほうが良いと思いました。

部活もしました。中国武術部という部活です。カンフーとも言います。そこでまた色々な人と出会えて、たくさんの友達をつくりました。

九州産業大学の国際交流センターの方々も、いつも色々なイベントに誘ってくださいます。そのおかげで、大学でなにか困ったことがあったらいつでも頼れる人がいました。

**夏**

７月５日から１６日まであった平成２５年度海外福岡県人会子弟招へい事業は、私にとってすばらしい経験でした。子ども達にとっては、他の国の人と友だちになったり、様々な所につれて行ってもらったりと、あふれるほどの思い出をつくれて、いい機会だったと思います。様々な人たちの思いが込められたおかげで、このプログラムが実現したと私は思いました。このプログラムは、子ども達だけではなく、私たち留学生、引率者たち、そして子ども達の家族、他にも色々な人たちを喜ばせることができた本当に素晴らしいものだと思います。プログラム中は色々なところに行きました。まだ私も見たことのない初めての日本、福岡の文化を子ども達と一緒に見ることが出来て楽しかったです。それぞれの国の文化も見ました。そして、同じブラジルの人たちにも会い、知らないブラジルも知る事ができて楽しかったです。一緒に過ごした楽しい毎日の思い出は子ども達にも忘れないでほしいです。

**福岡の食べ物**

福岡のラーメンの美味しさは日本に行く前から噂に聞いていました。そして日本に着いた日に、ラーメン屋でラーメンを食べる事になりました。「うわー美味しいなー」と思った私は、まだまだこれから先に、もっとおいしいラーメンを食べる事が出来るとは思ってもいませんでした。福岡はラーメンだけでなく、全体的に料理がおいしかったです。私は特にデザートが美味しいと思います。日本に来ることが出来て、ありがたいです。

**最後に**

皆様が私たちのサポートをして下さったことにとても感謝しています。国際交流センターの皆様には大変お世話になりました。私は家族会と国際交流センターの皆様に感謝でいっぱいです。日本での生活を最後まで楽しみます。そしていつか、みんなにこの幸せを返していけるような人間になりたいと思います。

九州産業大学　商学部第一部　教授　浅川　哲郎
（松延担当教員）

松延理恵さんはこの春の来日以来、九州産業大学商学部の私の会計学関係の授業、ゼミそして日本語関係の授業等を履修しています。松延さんの目標は、留学後は母国に帰り、食品関係のビジネスの経理担当に従事することであると聞いています。

彼女の授業等への出席態度は真面目で、ほとんど欠席はありません。私のゼミでは前期に会計の基礎知識、後期に企業分析を行っているのですが、会計の基礎を勉強していた前期には、日本語の習得状況が今ひとつでしたが、その後の努力により、幾分上達してきたように思います。会計は記帳練習が大切ですので、使用した教材を今後も反復練習することにより、実力が付いていくものと思います。

後期は企業分析を学生のプレゼンテーションや資料ビデオを見ることによって実施したのですが、日本の大企業の事業内容や歴史について詳しくなったのでは、と思います。これらの学習活動を通じて日本語の会話の能力に関しては、最近では相当上達したように思います。

彼女は私のフェイスブックの「お友達」なのですが、時折、アップされる写真で福岡での生活を楽しんでいる様子がわかります。大学の課外活動では、日本の武道サークルに入っているようです。ブラジルでは体験できないサークル活動は日本のまた別の側面の理解につながっているものと思います。また海外の災害支援に関わるボランティア活動にも積極的に参加している姿は日本人の学生も見習うところが多くあります。

松延さんのこれからの課題としては、日本への留学目的が食品関係のビジネスの研究ですので、その分野のリサーチを進めることでしょう。日本語と会計関係の知識はある程度のところまで到達していますので、今後はそのスキルに磨きをかけると共に、将来、ブラジルで使える知識、経験を身につけられるよう努力すべきです。また福岡は冬の食べ物は美味しいところですので、その目的には良い場所だと思います。

ブラジル福岡県人会
上田　上村　ゆきこ　ブルナ

**はじめに**

私は、この一年間を日本でとても楽しく過ごし、良い思い出がたくさん出来ました。四月に福岡に着いた時には、私にとって初めての事が多くて困ることがあるだろうと思っていたので、とても心配でした。でも、この一年間の生活では、何も大きなトラブルがなかったので、現在はとても安心して日本で暮らしています。

私は、子どもの時からいつも日本のことをもっとたくさん知りたいと思っていました。いつも祖父母から日本の話を聞いており、ブラジルでも四歳から日本語学校へ通っていました。今年、日本に来る機会を与えられたので、子どもの頃からの夢が叶った気がしています。私は、夢を叶えてくれた関係者の皆様に、心から本当に感謝しています。

四月に福岡に着いたときから、私は新しい経験をたくさんすることが出来ました。一人で日本に住むこと、新しい大学に行くこと、いつでも日本語で話すことなど、私にとって全てが新しい体験でした。また、日本の気候はブラジルとかなり違っていました。たとえば、夏の日本はとても湿気が多くて、ブラジルより蒸し暑いので過ごしにくかったです。それから冬の日本は、風が冷たくてブラジルより寒いと感じます。

**日本での生活**

私にとって、福岡はとてもきれいな場所が多くて、色々新しい経験をすることができました。福岡の多くの人はとっても優しく、食べ物（たとえばラーメンや、寿司など）がとてもおいしいです。私はこの一年間に、福岡のさまざまな場所へ行きました。そこで、日本の文化やマナーなど、色々なことを学びました。

休みの期間には、福岡だけではなくて、日本の別の都市にも行きました。名古屋市や富山県や奈良県や京都府や広島県、そして東京へも行きました。日本の都市は、どこもきれいで快適でした。しかし私にとって、福岡県は日本では最高の都市であり、一番住みやすい場所です。

毎月、家族会のイベントが色々ありましたので、福岡県や日本の文化を学ぶことが出来ました。そして、それらのイベントではいつも楽しく過ごせました。

**多くの行事に参加**

最も印象に残っているイベントは､子弟招へいプログラムと第８回海外福岡県人会世界大会です。

子弟招へいプログラムでは、色々なことを学びました。この経験の中で、色々な国からの新しい良い友達に出会うことができました。このプログラムを通じて、福岡県の祭り（博多祇園山笠）や観光地（皿倉山、小倉城、太宰府天満宮）などを、多く知ることもできました。

第８回海外福岡県人会世界大会はとても大きなイベントで、様々な国から多くの人が来ました。海外福岡県人会世界大会に参加できたのは、とても嬉しい体験でした。この一年間で、様々な国から来る人たちと交流をすることが出来ました。これは、私にとって大切な経験であり、将来にも活かせる重要なことと思っています。

**勉強**

私は、九州産業大学において、主に経済学の勉強をしています。経済学については、理論経済学におけるマクロ経済学とミクロ経済学の二つの分野について、これまで学んで来ました。四月から八月までの前期の授業の期間には、授業のクラスと個別の研究指導の時間において、主にマクロ経済学を学びました。九月から十二月までの後期の授業期間では、ミクロ経済学を学びました。具体的には、毎週、指導教授の筒井修二先生に指定された経済学のテキストを私が予習しておいて、次の週の研究指導の時間に、内容の分からないところや疑問点について先生に質問をする形で学び続けてきました。

学校の授業では、その他にも、日本語やビジネス日本語、そして英語や日本文化のクラスなどを受講していました。授業のクラスでは、いつも日本語だけで説明がなされるため、私にとって分かりにくい言葉がたくさん出てきました。毎週火曜日に先生に会う時には、分からないところや疑問点の説明をしてもらっていました。また先生に会う時は、いつも日本経済やブラジル経済の話をしていました。ブラジル経済と日本経済のことについて、本やインターネットで時事的な経済の話題を探して、先生と一緒に読みながらそれについて議論を交わしていました。筒井先生にはいつも手伝って頂き、とても感謝しています。

**これからのこと**

経済学の分野では、まだまだたくさん学ぶべきことがありますので、ブラジルに戻ってからは、経済関係の大学院へ行きたいと思っています。そして将来は、学んで身に付けてきた知識をブラジル社会に出て役立てるような仕事に就き、働きたいと思っています。

**最後に**

これまで日本で経験した全てのことを思い出すと、この気持ちは言葉では表現できない感情です。日本に来る機会を与えてくれた皆様に、本当に感謝したい気持ちです。私は、もっと日本にいたい気持ちもあります。しかし、もうすぐ帰る時が近づいているので、少し寂しくなっています。一年間でこんなに良い思い出ができたことと、良い友達もたくさんできたことは、とても嬉しく思っています。またいつか、日本で出会えた友達みんなに、もう一度会いたいと思っています。将来も長く友達関係が続いていくような気がします。ブラジルに帰ったら、日本でのこの一年間を忘れないようにしたいです。本当にありがとうございました。

Hawaii
御神前

九州産業大学　経済学部　教授　筒井　修二
（上田担当教員）

上田さんが出席する私の授業では、今年の前期に経済原論（マクロ経済学)、後期に経済原論（ミクロ経済学）を講義しました。上田さんは、この授業の次の日の研究生指導の時間に、分からないところを毎回質問に来ました。彼女は、授業の内容や予習・復習を詳しくノートに書いており、まじめに勉強している努力家です。また彼女は、ブラジルの経済にも関心を持ち、インターネットなどでブラジル経済の実態や産業の将来性などを調べていました。彼女は将来、ブラジルで経済関係の大学院に進み、日本の経済や文化とブラジルのそれを比較し発展させるような仕事に就きたい、との希望を持っているようです。

上田さんは、当初は日本語がスムーズにしゃべれなくて苦労している様子でした。現在は日本語能力が相当に改善しており、日常生活での買い物などはほとんど困ることなく、日本に順応して暮らしていると思います。また、福岡県の関係者の方々によるサポートやその他の皆様方のご協力のお陰で、さまざまな日本の文化や行事・習慣に直に触れることができ、それらを体験しながら楽しく過ごすことが出来ているようです。

ところで、上田さんは日本とブラジルの天候の違いにも戸惑うことがあるそうです。私にとってブラジルは、熱帯性の気候の国に感じられますが、彼女に言わせると、日本の夏は湿気が多すぎてブラジルより暑くて過ごしにくいそうです。また 12 月の日本の冬は相当に寒すぎて、風邪を引いたとのことです。日本では雪が降るシーズンがありますが、雪に対する彼女の反応を見てみたいと思っています。出来れば上田さんに、雪だるまや雪合戦で遊ぶ体験をしてもらいたいものです。

最後に、4 月からこれまで授業などで上田さんと接して来て感じたことは、上田さんはブラジル生まれの日系三世ですが、その人柄は素直で謙虚、そして優しい日本女性である、という印象です。

ブラジル福岡県人会
横尾　謙児　ロナルド

**はじめに**

僕はブラジル・パラナ州クリチバ市出身の横尾ロナルド謙児です。僕は５人家族で、曽祖父母は１００年前に福岡県からブラジルに移住しました。僕はパラナ連邦技術大学の機械電子工学科を卒業しました。卒業した後、専門知識を活かす仕事には就かずに、福岡へ留学をしました。留学を選択した理由は、ずっと日本へ行きたいと思っていたからです。僕はこの一年間の留学を有意義に過ごすために一生懸命頑張りました。

**新生活**

僕は、不安と期待の入り交じった気持ちで福岡空港に到着しました。２０１３年の福岡県海外移住者子弟留学生は僕を含めて８人います。その内７人は同じ寮に住んでいますが、１人は大学に通うには遠いので、福岡市から離れて飯塚市の大学の寮に住んでいます。

僕は、日本の生活に慣れるまで時間がかかりました。一番困った事は福岡の方言でした。今はだいたい理解できますが、最初はこの方言がものすごく難しかったです。

また、僕が日本に来て驚いたことは、交通事情です。例えば、バスの運転手はバスの動きを必ず知らせてくれるし、電車は時刻表通りに出発します。歩行者が道を渡るときに車が止まる事などブラジルでは考えられません。

日本では一年間に様々な自然災害が発生します。留学中にも台風や地震を何回か経験しました。そのたびに皆に気を付けてと言われましたが、普通に生活ができました。

他に心配だったのはホームシックです。しかし家族会の皆さんが、留学生達の健康の事を心配してくれます。そしてホームシックにならないように色々なイベントを開催してくれます。また気分の悪いときや病気のときも、彼らは僕達のためにサポートをしてくれます。

**子弟招へいプログラムと夏休み**

７月に、福岡県に様々な国から来た福岡県からの移住者の子弟が集まりました。この子弟招へいプログラムで過ごした１２日間で、新しい友達や様々な経験を得る事ができました。このイベントでは子どもだけではなく、僕もいっぱい楽しめました。僕は彼らと共にたくさん福岡県のことや日本文化を学ぶことができました。短い期間でしたが、子ども達は日本のことを学べたと思います。

８月と９月は大学の夏休みでしたが、研究室での研究活動は続きました。途中で先生と相談して、１ヶ月間休みを取ることができました。色々な場所に遊びに行くつもりでしたが、時間が限られていたので、可能な所だけにしました。行った所は東京都、豊田市、大阪市、奈良市、京都市、広島県です。休暇中に色々な所に行って、日本は小さな面積の国なのに、文化は多種多様であることを実感することができました。しかし福岡県へ戻ったときに、やっぱり福岡県が一番住みやすい所だと思いました。

## 九州大学での研究

九州大学では複合加工について勉強しました。この加工は設計と切削の２つのプロセスに分かれています。最初に複合加工を学ぶために、先生からその分野について書いてある本を借りました。加工プロセスは色々な方法があります。例えば、塑性加工やプラスチック射出成形などがありますが、僕の専門は機械で金属のブロックを削る切削加工です。普通の加工機械は３軸や４軸加工ができるので、日本にはもっと専門的な加工機械を探しに来ました。残念ですが、九州大学では見つかりませんでした。

借りた本には２つの加工機械を使った加工方法を説明していました。その２つの加工機械とはフライス加工と旋削加工です。フライスはドイツ語で Fräsen と言います。フライス加工はテーブルの上に金属を固定し、それにテーブルがアプローチすることで加工を行います。旋削加工は加工する金属を回転させ、工具を横からアプローチして加工を行います。本には５軸と６軸制御加工方法も書いてありました。今回はこれらの機械の理論のみを学びました。今後その機械を操作する機会があったら、ぜひ使ってみたいと思います。それ以外には CAD プログラムを使って設計図を作成することができました。九州大学では Pro Engineering と言うプログラムを使っています。このプログラムは実際に製品を製作する前の３D 設計開発のためのものです。設計以外ではアセンブラや製造や描画やレポートなどができます。ブラジルでは Solid Works と言うプログラムを使っていたので、慣れるまでに２週間ぐらいかかりました。

## 最後に

私は、海外に住むのは初めてだったので、この留学は非常に重要な経験になりました。福岡県に留学してたくさんの人との一期一会がありました。日本へ来てからの経験は、すべて良い思い出となりました。何度も辛いことがありましたが、それ以上に嬉しいこともありました。日本に留学して経験した事は大切にします。

福岡での留学中、福岡県国際交流センターと福岡県海外移住家族会の皆さんに大変お世話になり、とても感謝しています。

日本へやっと来る事ができ、夢を叶えてくれたブラジル福岡県人会の皆さんに心から感謝しています。帰国後、ブラジル福岡県人会や青年の活動にも積極的に参加するつもりです。九州大学研究室の黒河周平先生と精密加工学研究室の皆さん、この一年間早かったけれど、すごく楽しかったです。

UNIVERS

九州大学大学院工学府　機械工学専攻　教授　黒河　周平
（横尾担当教員）

横尾　謙児　ロナルド氏は、大変明るくフレンドリーかつ物怖じしない性格で、研究室内では皆と仲良く接し、研究室へ刺激を与えてくれて、雰囲気が大変良くなりました。研究室の学生やスタッフばかりでなく、日本各地を巡り、地域の多くの方々とも親しく交流し、研究だけではなく国際的意味でも文化面・生活面での交流を積極的に行いました。

研究面では、機械工学において、CAD/CAM を利用した製品の設計・製造、工程設計に関する研究テーマを希望し、当精密加工学研究室に所属しました。所属当初から、日本語で書かれた多軸・複合加工 CAM の書籍を読破し、自分なりに翻訳・まとめまで行いました。さらにその知識を活かし、ハイエンドの三次元 CAD/CAM システムを用いて、自分の好きな製品を設計するとともに、実際に高精度多軸加工機を用いて、その製品を製作致しました（写真 1，写真 2）。とても飲み込みが早く、独創的で、出来上がった製品を見るにつけ、よく頑張ったなと感心しております。授業にも積極的に参加し、朝 1 限目から大学院の精密加工学授業に毎回出席し精力的に勉学に励みました。さらに実加工を学ぶ大学院カリキュラムである加工プロセス演習にも毎回参加し、実際の製品を作り上げるプロセスを学びました。

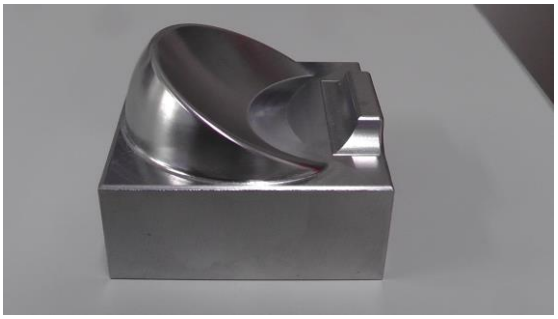

写真 1　横尾氏の設計・製作製品

写真 2　出来上がった製品とともに

最初に横尾氏に出会ったときのエピソードです。来日時に博多駅で福岡県交流センターの方と落ち合う予定だったはずが、うまく出会うことができなかったようで、仕方なく公共交通機関を使って、遠路当キャンパスまで自力でたどり着き、当方との面会時間に余裕で間に合ったのでした。大学キャンパス入口の守衛さんから当方へ連絡があったときには、自力でたどり着いたことに正直驚くと共に、トラブルにも迅速かつ的確に対応し、見知らぬ土地でも特に困ることもなく度胸のある性格には、大変頼もしく感じました。日本全国各地も積極的に訪れ、地域の人々との交流や文化体験なども積極的に行いました。名古屋ではおじさん・おばさんに会いに、東京では秋葉原、大阪ではユニバーサルスタジオ、京都では清水寺に伏見稲荷大社、奈良では鹿、広島では宮島、日光では初めての雪の体験もしました。また九州各地においても、熊本では熊本城、長崎ではハウステンボスに長崎ちゃんぽん、佐賀では有田焼にバルーンフェスタ、地元福岡では 11 月の大相撲九州場所な

ど、日本の歴史と文化の理解を深めました。さらに、福岡県人会世界大会が福岡で開催されたこともあり、準備や翻訳作業、受付業務も積極的にこなしました。これらの体験やイベントを通して、多くの友人をつくり、日本についての正確な知識と理解を深め、日本とブラジルの交流の輪を大きく広げたと思います。将来は、きっと立派なエンジニアになり、世界を股にかけて活躍することになるかと思うと、楽しみでなりません。

ペルー福岡クラブ
ヨシカイ　ベニテス　ディエゴ　アロンソ

**自己紹介**

私はペルーのアレキパ市で生まれた日系４世です。日系人の親、そして弟とアレキパ市で、育ちました。私は、２０１２年アレキパ市にあるナショナル・デ・サン・アグスティン大学を卒業しました。そこでは生物学の勉強をしていました。私の祖父母が日本人であったことから、私はペルー福岡クラブの活動の手伝いをし、故郷である福岡に興味を持ちました。そして日本語や日本文化をもっと学びたいと思い、私はこの県費留学生制度に参加することにずっと憧れていました。

**真の日本の発見**

福岡の人々は、外国から来た人々にとても優しいです。そして、都会であるにもかかわらず、周辺には山、海、美しい公園など自然があります。また、この１年でたくさんの活動に参加する機会を持つことができました。田植え、ぶどう狩り、茶道、ホタル観賞などです。こういった多くの活動を通して、日本文化を学ぶことができました。また、久留米に住む古賀さんのお宅にホームステイもしました。古賀さん一家は、とても好意的で、お寺に連れていってくれたり、バーベキューを楽しんだりと、伝統的な日本の習慣のなかでご家族と過ごすことができました。福岡にいる間、家族会の皆様との関わりや素晴らしい環境の中で、日本人が時間を守り、相手を尊重する文化を持つことに気づきました。

夏には、花火大会の花火にとても感銘を受けました。何百発、何千発と打ち上げられる花火の大きさ、色、形。それは暗い夜空に大きく浮かび上がり、本当に驚きました。その日は、花火大会へ行くために浴衣を着ていきました。駅や街は花火を見る多くの人々で混雑していたのを覚えています。幸いにも、その日は吉永さんの家のパーティーに招待されて、家のテラスから快適に、それも特等席で素晴らしい花火観賞ができました。吉永さんには、本当に感謝しています。

それから、日本に行ったら一番に食べてみたかったのは、寿司と刺身でした。日本にはたくさんの「お寿司屋さん」と呼ばれるものがありますが、一番好きになったお寿司屋さんは、北九州の港にあるお寿司屋さんです。北九州の家族会の皆さんに連れていって頂きました。言葉にできないほど美味しかったです。

**夏季休暇**

７月、「海外福岡県人会子弟招へい事業」がありました。様々な国から来た福岡県移住者の子弟達が、イベントに参加しました。県費留学生もこの事業のサポートをしました。この活動は、参加者が日本について学び、また自国について改めて学び直す素晴らしい機会となりました。友達を作る良いきっかけにもなりました。子ども達には、このような最高の思い出を、自国に帰っても忘れてほしくないと思いました。

この事業が終わってから、親戚がいる八女市にいきました。初めて会う親戚でしたが、本当の家族のように迎え入れてくれました。田舎の水田や茶畑の美しさから、自分の祖先が昔はこんなに静かで平和なところに住んでいたのだと思うと嬉しく感じました。

そして、研究室の旅行では、大分にあるサファリパークに行きました。そこでは鉄格子で囲まれ

たケージのようなバスに乗り込んで、動物を見ることができました。今までに経験したことのない距離感で、シマウマ、キリン、カモシカ、ライオンなどを見て、とても感動しました。動物の吐く息でさえ、こちら側に伝わってくるほどでした。日本に着いてからは、すべてが楽しくて面白くて、時間はあっという間にたってしまいました。

**私の研究について**

九州大学の堤祐司教授のもとで、森林科学・生物科学について勉強をしました。教授に出会えたことは、とても幸運なことでした。色々な面で手助けしてくださり、常に私の疑問に答えて下さいました。話をする時間もたくさんとってもらい、たくさんの知識を学ぶ事ができました。研究は本当に興味深い研究分野で、多くの実用的な技術研究を行いました。リグニンの割合とシロイロナズナにおける組織化学的染色、UQB 分離遺伝子ギンドロとプレゼンスギンドロペルオキシダーゼ活性の参照遺伝子、使用制限決定に至る研究などを行い、これら全てがリグニンに関連した研究でした。リグニンは植物から高度なバイオ燃料を抽出するための主要な成分として、これからの重要な研究課題となっています。

研究の他に、日本語の授業を受けました。日本に来た頃よりも、かなり上達したと思います。日本語の授業の先生方は厳しい時もありましたが、とても親切に接してくれました。私は、これからも日本語を勉強し、興味を持ち続けていきたいと思います。

**結論**

ペルーに戻ってからは、林業とバイオディーゼル燃料に関連した仕事に従事したいと思います。県人会活動に協力し、これからの県人会の運営に貢献していきたいです。ペルーの福岡県人の全ての子ども達がこの美しい日本を訪れてくれることを期待しています。ペルー福岡クラブは、私が住むアレキパ市ではなく、リマ市にあります。アレキパ市に住む人々と福岡県との間に、県人会を通して人々が情報交換できるような関係を築き上げることが私の願いです。本当に日本が大好きなので、いつかまた将来、日本を訪れることを誓います。

**感謝の言葉**

福岡県知事や福岡県民の方、私達留学生に祖先の故郷を知るこのような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。国際交流センターの皆さん、素晴らしい毎日を過ごすことができるようにサポートして下さり、心から感謝を申し上げます。

家族会会員の方々、大内田アルマンドさん、私の人生において最高の機会を与えてくださいました。吉永正義さん、吉永拓哉さん、身元保証人として私を受け入れてくださり、本当にありがとうございました。私の研究に忍耐をもってご指導くださいました堤教授、多くのことを教えていただき、本当に感謝しています。

私のすべての日本人の友達、トモ、由井、ケント、私が言葉を理解するのに色々と協力してくれてありがとう。そして、県費留学生、特に直人くん、真の友情の証を私に証明してくれました。ありがとう。みなさん、どうか体に気をつけてお過ごしください。

九州大学　農学部　堤　祐司　教授
（ヨシカイ担当教員）

これまでの大学教員生活において、多くの外国人留学生ならびに外国人研究者を就学および研究目的で受け入れきたが、今回の様に国際交流を主目的とする受け入れは初めてであった。しかしながら、ディエゴ君の九州大学留学が帰国後のキャリアに役立つものとなることを期待し、彼には通常の留学生と同様の就学内容を提案した。

ディエゴ君の当研究室における生活の様子は、他の日本人学生や留学生と同じように、一日の大半を研究室での勉強と実験に費やした。その中で、彼に感じたことは、①研究室で行っている研究内容に興味を持ち、積極的に勉強や実験技術の習得に取り組んだ。②日本の大学の高い教育研究レベルに接することにより、自身のキャリアアップのため九州大学での大学院進学（修士課程ならびに博士後期課程）について真剣に希望し、進学するための奨学金獲得の努力を行った。

以上の様に、ディエゴ君は九州大学での留学期間中の相当な時間を研究室での勉強と実験に投入したため、交流という意味においては比較的狭い範囲にとどまってしまったという印象を受ける。一方で、彼は今回の留学によって大きな刺激を受け、研究という新たな道を選択する可能性に期待したと感じる。

ディエゴ君は、明るく、勤勉でかつ協調性も高いことから、すぐに研究室の学生達とも打ち解けた。私自身も、彼の日々の生活や性格を知り、できることなら彼に大学院進学のチャンスが与えられればと強く思っている。また、仮に日本で学位取得した後、母国の教育研究に貢献できれば、それは素晴らしいことだと考える。

今回の事業による留学経験がディエゴ君のこれからの人生に役立つことを大いに期待するとともに、本事業を主催される皆様におかれましては、留学期間の特別延長制度や奨学制度への推薦等のオプションをご用意頂ければと切に望みます。

在ボリビア福岡県人会
徳永　直人

**はじめに**

始めに、福岡県国際交流センター、在ボリビア福岡県人会、第一自動車整備専門学校、家族会の皆様に、僕に日本に来る機会を与えて頂いて心から感謝しています。

日本は、僕にとっての故郷であり、あこがれの国でもあり、日本に来る事が子どもの頃からの夢でもありましたので、留学が決まった時はとても嬉しかったです。日本に来る事が出来たことをとてもありがたく思っています。

僕は、ボリビアから来た日系２世の徳永直人です。平成２５年度の県費留学生として日本に来ました。僕はこの一年間で様々な事を学びました。一番大切にしたいのは、日本の文化やマナーをボリビアに帰っても大切にする事です。日本で覚えたマナーは、「時間を守る、ごみを捨てない、けじめをつける」などさまざまです。このマナーを帰国後、活かす事ができたらいいなと思います。この一年間は、長いようで、とても短かったです。

**学校のこと**

僕は、第一自動車整備専門学校で自動車整備を学びました。最初のころは、学校で先生が言っている事を理解できるか不安でした。うまくなじめるか、友達が出来るかもとても不安でした。しかし時間が経つと同時に日本の生活に慣れてきました。友達もできて様々な場所に行ったりしているうちに、だんだん日本での生活が楽しくなってきました。学校では、学科と実習をしました。学科では、エンジンの構造、シャシの構造、トランスミッションの仕組みその他にも様々なことを教えてくれた第一自動車整備専門学校の先生の皆様にとても感謝しています。会社見学で、HINO や自動車の車検見学に連れて行ってもらったときはとても魅力的で、いい勉強になりました。

日本には初めて来たので、とても不安はありました。ご飯も一人で作れるのか不安でした。なぜかというと、あまりご飯を作ったことがなかったからです。でも、ほかの国の県費留学生が作ってくれたのでとても助かりました。また、国際交流センターと家族会の方々との交流と支えがあったからこそ、日本での生活に早くなじめたのだと思います。ほかにも様々なイベントがあり、その中でも一番思い出に残るのは、子弟招へい事業、世界大会とホームステイです。

**行事のこと**

子弟招へい事業では、世界中の国の子ども達と引率者の方々が福岡に来ました。子ども達は、福岡県の伝統的な場所を見学したり、日本の小学生との交流をしたり、日本文化を肌で感じ、とても思い出に残る経験だったと思います。そのうえ僕は、子ども達と引率者の方々と交流をし、とても仲良くなれました。

世界大会では、世界中の福岡県人会が福岡に集まりました。このイベントは、３年ごとに行われていますが、今年は１２年ぶりに福岡県で行われました。僕は、このイベントに参加できて、とても嬉しく思っています。世界大会では、色々な国の人たちと交流ができました。その中には、僕のお祖父さんを知っている方々とも出会えました。

ホームステイでは、黒木町に住んでいる親戚の所につれて行ってもらいました。そこは昔、父が

生まれた場所であることを聞きました。あそこまで田舎だと知ってとてもびっくりしました。

**夏**

夏休みには、花火大会に行き、大きく色とりどりの花火を見たのは初めてだったので、とても感動しました。その後、横浜の祖父母、おばさん、従兄弟に会いに行きました。１０年以上会っていなかったので、僕は、祖父の事を見てわかるかが少し心配でした。しかし会ってすぐに祖父だとわかり、とても元気そうでほっとしました。祖父は、様々な場所へ連れて行ってくれました。福岡県に帰ってきて、福岡県に住んでいるおじさん、従兄弟に会いにいき、おじさんたちは、福岡県でいろいろな場所に住んでいる親戚の所に会いに連れて行ってくれました。１０年以上会っていなかった親戚や、一度も会ったこともない親戚に会えて、とても嬉しかったです。その後従兄弟たちといろいろなところに遊びに行ったり、ご飯を食べに連れて行ってもらいました。とても楽しかったです。

**これからのこと**

国際交流センターから帰国の話が来たとき、もうすぐ一年間が経つのだなと思いながらメールを読みました。帰国後僕は、この一年間日本で覚えたことをボリビアでも活かせる仕事をしたいと思います。

第一自動車整備専門学校　髙向　俊和
（徳永担当教員）

私としては初めての受入でしたので、正直とまどいはありましたが、徳永直人君自身も、不安があったのではないかと思います。

徳永君は、日常の会話や意志の疎通は出来ておりましたが、専門的な用語や漢字で苦戦している姿が当初は見受けられました。時間がたつにつれ、クラスの仲間と打ち解け、徐々に明るさが増していく姿を見て、安心することが出来ました。

彼には他の生徒と同じカリキュラムで、午前中は学科３時間、午後は実習を３時間受けてもらい、その理解度を見るための試験も受験させました。全ての科目でほぼ平均点を上回る状態で、各先生に就学状況を聞いても真面目に取り組んでいるようです。

私が見ている範囲でも、分からない事は先生や成績の良い子に聞いたり、実習の部品をカメラに収めたりする姿を見受け、自動車整備に関心がある事は間違いないように思われます。このまま今の状況で２年間を過ごせば、自動車整備士の資格取得は十分に可能だと思われます。

現在の段階では、このような状況ですが、本人も帰国したら自動車に関係する仕事につきたいと言う希望はあるようですので、今回の体験が無駄にならないのでは、と感じております。

アルゼンチン福岡県人会
湯浅　ファクンド

**はじめに**

私は、アルゼンチンのブエノスアイレス市出身の日系３世です。この一年間の留学は絶対に忘れません。留学生のみんなと仲良くして、日本人の友達もできて、様々な体験もできてとても嬉しいです。日本での生活も経験できて、とても素晴らしいものだと思います。また、親戚や、数年会っていない友達と会えることもできました。もちろん、勉強もできました。大学の研究と日本語の勉強も頑張って、将来に役に立てたいと思います。

**生活**

福岡に来て一番驚いたのは、日本人はみんなとても親切なことです。例えばお店に入ると、何も買わなくても、いつも「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」と挨拶されます。

僕は他の留学生と違って、留学生の寮から大学が遠いので、九州工業大学飯塚キャンパスの寮に入りました。大学では同じ研究室の方や留学生のおかげで、楽しい生活を送ることができました。研究室にいる時間が多かったため、研究室の皆と友達になれてとてもよかったです。いつも一緒に食事へ行ったり、居酒屋で飲んだり、小倉で遊んだり、野球の試合を観戦したりしました。

また、毎週末は福岡市まで行って、他の県費留学生と遊びに行きました。カラオケや買い物やゲームセンターへ行って遊びました。みんなと本当に仲良くでき、色々な思い出も作り、帰国してもいつかまたみんなに会いたいです。僕が友達の国へ遊びに行くことも楽しみですし、また、みんなにもアルゼンチンに遊びに来て欲しいです。

**イベントの事**

この一年間で大きいイベントが２つありました。７月に子弟招へい事業が行われ、色々な国から子ども達２２人が来ました。福岡県で有名な所、小倉城や太宰府天満宮、トヨタ自動車九州工場にも見学に行きました。様々な日本文化の体験、うちわを作ったり、太鼓をたたいたり、流しそうめんを食べたり、梅が枝もちを作ったり、茶道や山笠の祭りにも参加をしました。一番良かった行事は福岡の小学校で小学生と１日交流をしたことです。男の子の数が多くてとても大変でしたが、僕は本当に子どもが大好きなので、とてもいい時間を過ごせました。

１０月に海外福岡県人会世界大会が行われ、様々な県人会から３００人が参加しました。アルゼンチン代表として、祖父と祖母も参加しました。世界大会で様々な国の人と交流できて、とてもいい経験になりました。世界大会がきっかけで、西日本新聞の取材を受けました。取材では自分のこと、祖父母の移住、アルゼンチンの日系人や福岡県人会のことについて話しました。研究室の友達と写った写真ものせていただきました。

また、毎月、家族会や国際交流センターが主催するイベントがありました。生け花や田植え、着物体験、茶道、花火大会、ラーメン作り体験などに参加しました。

**夏休みの事**

今年の夏休みに東京と広島へ旅行をしました。東京では色々な場所を回りました。新宿や、渋谷、原宿、六本木、浅草、秋葉原、上野に行きました。中でも一番楽しかったのは、東京からバスで富士急ハイランドに行ったことです。お盆の時に行ったので、人がとても多かったです。帰りのバスに乗り遅れたため、次の日の朝まで付近の町をぶらぶらしました。広島では親戚の家に泊まって、おばさんとおじさん、いとこに会うことができました。そこで長男のいとこのアカペラサークルのステージや、次女のいとこのソフトテニスの部活の試合を見ることができました。原爆ドームや宮島にも行きました。

**勉強の事**

私は九州工業大学情報工学部機械情報工学科の楢原・是澤研究室に所属しています。この研究室では是澤宏之先生の元で、プラスチック製品を作る方法の 1 つである、射出成形に関する研究を行っています。この研究では、まず、金型と呼ばれている装置に２つのセンサー（圧力センサーと金型の変形を測定するセンサー）を取り付けます。そして測定実験を行い、きれいなプラスチック製品を作る為の成形条件を迅速に設定する方法を探します。私は射出成形法の勉強は初めてなので、様々な勉強会や講義、工場見学に参加し、必要な知識や技術を学んでいます。

また、大学で日本語上級と中級の授業を受けて、日本語能力試験Ｎ３級、Ｎ２級も受けました。

**帰国後**

帰国後は、この１年間で得た経験、日本の事、福岡の事を多くの人に伝えたいと思います。アルゼンチン県人会の行事に参加し、この１年間の経験を伝えて、後輩となる留学生のサポートを行いたいと思います。県人会は若い人の数が少ないので、留学生が中心となって県人会で行われる行事の参加を呼び掛けたいです。

また、様々な県人会の友達ができたので、互いに意見を交換し、どのような行事を行ってるのか、そしてどうやって若者に参加意欲を起こさせれば良いかを調査をしたいと思います。

**最後に**

この留学中に福岡県庁、国際交流センター、福岡県海外移住家族会、アルゼンチン福岡県人会の皆様には大変お世話になりました。また、楢原先生と是澤先生には熱心に御指導を頂きありがとうございました。研究室の仲間には、いつも助けてもらい感謝しています。入江泰彦さん、平野勝与さんには、身元保証人として受け入れてくださり、本当にありがとうございました。そして、留学生の皆さんには仲良くしてもらい、楽しい１年間を過ごすことが出来ました。その他多くの方々に支えていただき、充実した留学生活を過ごすことが出来ました。この経験を生かし更に精進して参りたいと思います。

生ビール

九州工業大学情報工学部　機械情報工学科　教授　楢原　弘之
（湯浅担当教員）

今回、アルゼンチンから研修生が来るということで、私の研究室に問い合わせがあり、湯浅君を受け入れることにしました。彼が品質関係の研究をしたいという希望を持っていて、研究室の研究内容と合致していた事も理由の一つです。しかしまた、留学生を受け入れることで、研究室の日本人の学生達が異文化に触れる機会も増えるので、お互いに広い視野を持てるだろうという私の期待もありました。

研究室の学生達も、異国の話には興味を持っており、彼とよく昼食を共にしているようです。研究室の全体ミーティングでは、アルゼンチンで行っていた研究や仕事を紹介するなど、日本と外国での習慣の違いを理解する良い機会になったと思います。

湯浅君は、既に大学卒業後に仕事に就いていた経験もあり、また研究室の学生達よりも年齢が上という事もあって大人の行動が取れており、何も心配することはありませんでした。

しかしながら、湯浅君が日本に来日した早々に飯塚市内で事件があり、彼が、たまたまその近くを通りかかったために、警察に職務質問をされるという事件がありました。普段は飯塚市内であまり事件は起きていないのに、このようなタイミングで彼が遭遇したため、受け入れ側の身としては日本の治安をとても残念に感じました。飯塚はとても危ない場所で早く帰国したいと、飯塚に慣れない内に彼が思わないかという点は心配でした。その後、福岡県国際交流センターの方々のケアもあり、また日本にいる親戚にも会えたようで、今回の日本滞在は、ご先祖の墓参りも兼ねた良い機会になったと思います。

九工大の飯塚キャンパスには、自動車や家電の大量生産で用いられている金型技術について、全般的に知識を得られるように講義科目が充実しています。彼は帰国後に日系の企業に入社したいという希望を持っており、日本企業の技術力を支える基盤技術の最新情報を学べる良い機会になったと思います。

本当に１年足らずの短い時期でした。この青年期に日本で過ごした貴重な経験を活かして、湯浅君が帰国後にも公私共に大活躍してくれることを期待しています。

南加福岡県人会
金川　龍介

## はじめに

皆さまこんにちは、金川龍介です。

今回は日本に来てから感じたこと、体験したことなどについてお話をします。また、日本に来るきっかけなどもお話し

たいと思います。

## 日本に来るきっかけ

僕は日本、福岡で生まれてから生後一か月でアメリカに渡り、ロサンゼルスで育ちました。最初の言葉も日本語で、幼稚園に入るまで英語なんて全く話す事もできなかったうえ、日本語学校にも毎週通っていた事から、日本語を不自由なく話すことができます。僕は、記憶にも残らないほど幼い時と、小学校の時にしか日本に行ったことがありませんでした。日本に行き、テレビで見るような日本の名所に行ったり、日本の食べ物を食べてみたいという思いが強く、日本にあこがれを持っていました。三年前に妹が、在籍しているアメリカの大学を通して、大阪大学に留学することが決まりました。うらやましくてたまりませんでした。「よし！僕も日本に行ってやろう！」と、妹が留学を終える夏休みに、旅行で日本に行く事にしました。ここで話が少し変わりますが、僕の家族は南加福岡県人会に入っており、県人会のイベントに参加させてもらっていました。そこで、県人会を通して日本に留学するプログラムがある事を教えられました。少し興味があったので、軽い気持ちで「僕も留学してみたいですね。」と言い、あと少しで大学を卒業するので、その後にしたいなと言う気持ちで、留学の説明を聞いていました。

僕が日本に旅行に行く日に南加福岡県人会の恒例のピクニックがありました。出発の前に少し寄って帰るつもりが、そこで留学用の手続き用紙を貰いました。来年留学するための手続きで、もう時間がないから早く終わらせようねと言われてびっくり。混乱状態のまま、とりあえずその書類を持って、日本に行く事になりました。日本に旅行に来たのに留学手続きをするの？しかも大学の卒業もまだなのに留学するの！？と疑問と混乱だらけでした。日本で旅行をしながら留学手続きの書類を書きました。そして僕は留学することになりました。しかし、本当のことを言うと、行きたい気持ちがこんなに中途半端なまま、日本に来ていいのか？こんな気持ちでは、僕の為に留学を進めてくれた皆さんに失礼なだけじゃないのか？と不安だらけで日本に行きました。

今振り返ってみると僕はあの時、何を不安に感じていたのだろうと思います。この留学を振り返って、日本に留学することは今までの人生で一番良い判断をしたと思っています。

## 大学のこと

日本に来てから一週間、大学が始まり、九州大学に行ってお世話になる先生へ挨拶をしました。九州大学で最も古い箱崎の学舎は、とてもきれいとは言えませんが、馴染みやすいとてもいいキャンパスです。そこでお世話をしてくれる同じ研究室のチューターに会いました。彼はしっかりしていて、面白く立派な青年です。最初から最後までお世話をかけっぱなしでしたが、日本に来て出会えて良かったなと思える、とても尊敬できる友達です。学校での勉強は、有機栽培の研究がテーマ

で、面白い事を色々と学びました。有機栽培の必要性や、食に対しての向き合い方などに関して教えてもらいました。一か月に二回、長崎県の佐世保市まで行って、有機農家さんの土地を借りて実験をさせてもらいました。

**福岡での体験**

続いて、福岡県で体験した様々なことをお話をします。ここで家族会の皆様のおもてなしに感謝したいと思います。家族会の方々のおかげで、福岡で色々な体験をさせてもらいました。北九州の門司港から山口県の下関まで歩いたり、久留米の近くで蛍を見たり、アメリカではなかなかできない体験を色々とさせてもらいました。

７月の子弟招へい事業では、様々な国から子ども達が福岡県に来て、僕たちがそのお世話の手伝いをしました。やんちゃで元気な子ども達がいっぱいで、少し大変でしたが、彼らと一緒の福岡めぐりや福岡の文化を学ぶこともできて、とても楽しかったです。

１０月には海外福岡県人会世界大会が福岡で行われました。最初は世界中の福岡県出身（もしくはご先祖様が福岡県出身）の方々が来るといわれてもあまりピンと来なかったのですが、いざ来られた時にはびっくりしました。僕が知っている小さな集まりの県人会だと思っていたものが、こんなにも大きな組織でこんなにもの人々を繋いでいるものだとは知りませんでした。この世界大会があったおかげで、僕は本当に福岡県人会と言うものの素晴らしさを感じることができました。この一年間で色々なことを体験できて本当に楽しいことばかりでした。

**最後に**

皆さんに感謝をしたいと思います。まずはこの留学を進めてくれた南加福岡県人会の皆さん、書類提出やそれまで色々と助けてもらった両親、祖父母にも感謝をしたいです。学校でお世話になった友達や先生方、家族会の皆様、この一年間色々な経験をさせてもらい、どうもありがとうございました。いつも楽しかったです。国際交流センターの皆様、こんな適当でダメな僕をいつもサポートしてくれてどうもありがとうございました。いつも迷惑かけてばかりで申し訳ないです。

一緒に寮で暮らした皆や、県費留学生の仲間にも感謝です。ブラジル、アルゼンチン、ボリビア、ペルーと様々な国から来た皆とは、いつも一緒にいて良い思い出ばかりで、本当に楽しい留学になりました。この留学中、日本の文化も南米の文化の勉強もできました。皆さん、ありがとうございました。こんな僕の未来に期待していてください。

最後にもう一度、心からありがとうございました。

ペルー
福岡クラブ
アルゼンチン
福岡県人会
在ボリビア
福岡県人会
南加
福岡県人

九州大学農学部　准教授　若菜　章
（金川担当教員）

聴講生としての入学以来、前期では３科目の講義，後期では１科目の講義をほぼ欠かさず受講した。ただし、福岡県の行事の都合で数回欠席している。受講態度は非常に真面目であった。日本語がかなり堪能であるために、日本人の学生ほどではないにしても、授業の内容はほぼ理解できていた。授業とは別に研究課題（４年生の卒業論文と同等）を課した。研究課題は「野菜廃棄物を用いた有機栽培野菜における品質と植食性昆虫の挙動に関する調査」で、これは簡単に言えば、有機栽培野菜における病害虫抵抗性の獲得機構に関する学術研究である。具体的には、無農薬条件下で有機肥料と化学肥料を与えて野菜を栽培し、これらの施肥方法の違いが野菜の生育、品質、食味および植食性昆虫の挙動に及ぼす影響を比較することにより、有機栽培の有効性を示唆する結果を導きだしている。金川君はこの研究を遂行するために、研究室の実験温室での栽培のみならず、長崎県佐世保市の農家が所有する有機野菜栽培の圃場へ毎月１～２回の頻度で出向いて実験や調査を行った。こうした日本の農業現場の一端に触れる体験と研究は、帰国後の学業や仕事にも役立つと思われる。

園芸学教室では大学生および大学院生の卒業研究、修士論文研究および博士論文研究に関する研究ゼミを毎週１回、さらにそれらに関連した世界の最新研究論文紹介ゼミを毎週１回行っている。金川君は研究課題の進捗状況に関する研究ゼミで前期２回，後期２回の合計４回のプレゼンテーションを行って質疑応答を繰返し、研究課題の進展に役立てた。さらに，この研究課題に関連する世界の研究論文を探索し、前期で２回、後期で２回の合計４回のプレゼンテーションを行って質疑応答を繰返し、研究課題の進展に役立てた。また、毎週２回のゼミに参加する事により、他の学生や院生が取り組んでいる園芸学上のおびただしい諸問題や諸知識を獲得した。

学習・研究活動とは別に、研究室の懇親会や親睦会、研究室対抗ソストボール大会（レギュラー４番）、圃場や実験室の共同美化作業などにも積極的に参加した。今後も勉学に、友人関係の構築に大いに活躍するものと期待している。